

## 年頭所感

岡山県養鶏試験場長

辛島 忠

本県養鶏界多年の宿望でありました養鶏試験場は、御承知の通り本県畜産関係者の総力を挙げての御援助により、30年10月の定例県会で、この建設が承認されました。用地の決定については紆余曲折がありましたが、同年12月23日に現在地が決定され、31年4月6日より工事に着手、爾来各方面の積極的な御協力によって10月6日、僅か6ヶ月間の短期間で略々工事は完了し、今日に及んだ訳であります。

当场が今日に到りますまでの間、終始力強い御鞭撻と御支援を寄せられました本県畜産関係者に対し、心から御礼を申し上げたいと存じます。同時に全国的水準を遥に抜く立派な施設を持った当场今後の運営につきましては、変らざる温い御教導を御願いしてやみません。

昭和32年は私達畜産人、特に養鶏関係者にとっては目出度い酉の年であります。今更縁起をかつぐ訳でもありませんが、巳の年や、子の年よりは私達に關係の深い酉の年の方が、まして酉と言う意味は鳥類を総称した所謂広い意味で鳥ではなく身近かな親近感のある鶏の意味でありますから、一層目出度いと大いに縁起をかつぐ訳で有ります。

人間と言うものは、とにも角にも、多かれ少なかれ、縁起をかつぐ動物である。しかし人間以外の動物では、縁起をかつぎたくとも、かつぎ得ないのであるから、縁起をかつぐ所に人間の人間としての味うべき所があると言う論法が、こじつければ成りたちそうであります。

今更古事来歴的な検索をする必要もない訳であります。鶏は神代より瑞鳥の一つとしてもてはやされ、

その鳴き声は、即ち鶏鳴は光輝暁明の象徴として、好ましい縁起をかつがれてきたものであります、と言う訳でしょうか、酉年は景気再来の年として、その正月は一般の人から大いに祝福されています。事実今年は戦後未曾有の好景気と言われているので、成る程と合点せざるを得ないものがある様です。

斯様に目出度い鶏と、切っても切れない関係にあるこの養鶏試験場は生れて始めての正月として、誠に縁起のよい昭和32年の酉年を迎えた訳であります。偶然の一致としては全く話が巧く構成されています。決して第1回の正月を酉年で迎えたい為に、予め計画して着工する程の縁起かつぎでもなく、またそれ程馬鹿げたことをする訳も有りませんから、まさに偶然の一致と言う次第で有ります。

ともあれ養鶏試験場に職を奉ずる私達は、大いに目出度い縁起をかつぎ、昭和32年は暁靄を破る鶏鳴の声に、みちみちした希望を以って、そして力強く羽ばたかなければ、酉年の鶏に対し全く申訳もない次第であります。切に読者各位の御声援を期待して年頭の御挨拶と致します。